



地域医療センター
地域医療連携通信

3

MAR. 2008
Vol. 29

● 外来診療時間 ●

午前8時30分～正午
午後1時～午後4時30分
(休診日)
土・日・祝日



四国フィルハーモニー管弦楽団ロビーコンサート

目次：CONTENTS

2
3

特集

- 4 高知医療センター病院ボランティア
ハーモニーこうち
- 5
- 6 第11回高知医療センター職員による学会出張報告
- 7 看護局だより フィジカルアセスメントについて
- 8 高知医療センター イベント情報

高知医療センターの基本理念

患者さんが主人公の
病院をめざして

1. 患者さんが主人公の病院にします
2. 高度な医療を普段着感覚で提供します
3. 自治体病院としての使命を果たします

平成20年3月1日発行
にじ 3月号(第29号)
責任者:堀見 忠司
編集人:地域医療連携広報委員
特別編集委員
発行元:高知医療センター
地域医療連携本部
印刷:共和印刷株式会社

高知医療センター
〒781-8555 高知県高知市池2125-1
TEL:088(837)3000(代)

ご存知ですか？

高知医療センターは
ボランティア活動を
受け入れています。

高知医療センターでは、病院ボランティアを受け入れています。グループ名称は「ハーモニーこうち」。登録メンバーは200人を超え、昨年度第二期の活動時間は日本病院ボランティア協会（212団体）加盟団体のうち、第8位という活動実績を誇るなど、熱心に活動をしていただいています。もちろんボランティアは病院の職員ではありませんが、病院職員と同様に対応させていただきます。

活動には誰でも参加できますが、トレーニングと研修をつみ、患者さんへの接し方や病院との約束事、またボランティアのなかでの活動の心構えなどを決め、患者さんの安全とプライバシーを擁護しながら、患者さんに近い立場でさまざまな活動メニューを展開しています。今回は、このハーモニーこうちにスポットをあててご紹介します。

特集：病院ボランティア「ハーモニーこうち」

ハーモニーこうちとは？



ハーモニーこうちは、高知医療センターで無償で自主的な活動を行うボランティアグループです。模擬患者として、開院前のトレーニングに参加するなど病院とともに歩んできました。定期的に病院と意見交換もしながら活動をすすめています。

ハーモニーこうちの理念

ハーモニーこうちは、「会員相互の自主的活動と協力により、高知医療センターの患者さんやそのご家族に安心感と安らぎを感じていただくことをはじめとして、より良い医療環境の向上に努め、すこやかな地域社会づくりに寄与し、会員自身も共に学び、人間としての成長を図ること」を理念にかかげています。

どんなことをしているの？

ボランティアの活動メニューは自主的にとはいうものの、活動を受け入れる病院との調整を行います。ハーモニーこうちの役員会と病院側の代表者との会“ボランティア連絡協議会”をもっており、病院側も特別協議会として重要な位置づけをしています。ボランティア連絡協議会は月1回定例で開催され、ボランティアと病院の情報交換や活動メニューの相談などの場になっています。以下、活動メニューをご紹介します。

外来・入院患者さんへの支援

開院当初から、行なっている活動のひとつに、外来患者さん等のご案内があります。そして、活動に余裕ができたはじめたころ、「入院患者さんの案内をしよう」と皆で話し合い、入院案内活動をはじめました。患者さんやご家族は、たくさんの不安をかかえて正面玄関に入ってこられます。

患者さんにより近い立場で、患者さんの気持ちを察しながら活動することを心がけています。

外来患者さんをご案内しています



🌐 小児入院フロアで小児患者さんの見守りなど

小児入院フロアで、小児患者さんのお昼の食事の見守り、食事の後は、本の読み聞かせや軽い遊びをしたり、また、車イス生活を余儀なくされているお子さんを院内中庭などの散歩にお連れすることもあります。活動を終えて帰るとき、「あしたもきてね！」とうれしい言葉をかけられることもあり、「ボランティアをして本当によかった」と感じます。

フロアには、専任の保育士さんがいますので、いろいろと相談をしながら活動しています。



小児患者さんの食事の見守りをしています

🌐 生け花、花づくり

院内に花を生けて飾っています。その数は 32 ヶ所。外来患者さんやご家族には癒しを、入院患者さんには四季を感じていただこうと、山野草などお店にはない花材を使ったり、また、華やかな花で四季を表現することもあります。

年間を通じて、花の調達はなかなか大変なことです。そこで、院内の敷地内に花壇を造り、花づくりもはじめました。チューリップや水仙、夏にはヒメヒマワリなどを育てて花材にしています。

また、憩いの広場や病院玄関にもプランターに四季折々の花を育て、患者さんやご家族をお迎えしています。昨年はこれまでの活動が評価され、「高知県地域花づくり奨励賞」を高知県知事からいただきました。



高知県地域花づくり奨励賞を受賞しました

花壇の手入れをしています



憩いの広場のプランターの手入れをしています

🌐 図書サービス

“入院中の患者さんのもとに文化の香りを”

高知医療センター 2 階外来の正面には患者さんも使える図書室“なるほどライブラリ”があります。もちろん入院中の患者さんも使うことができますが、図書室まで来られない患者さんも多いのが、この医療センターの特徴です。そんな患者さんにもお好きな本を読んでいただこうと、毎週 水曜日と木曜日の 14 時～15 時 30 分の間に、各入院フロアのはれやかラウンジや廊下で、本の貸し出しをしています。エプロンと同色の緑のカートに、患者さんの興味が持てるような本をたくさん積んで、入院フロアに運んでいます。自分が選んだ本を借りてくれたときは嬉しいものですよ。



入院フロアで貸し出す本を選んでいきます

イベント開催やイベントのサポート・登録方法

ハーモニーこうちでは、コンサート等の開催やイベントのサポートを行なっています。

小児入院フロアでの行事

小児入院フロアでは、四季折々いろいろな行事が開催されます。保育士さんや看護師さんと一緒に、参加協力をしています。年明けの“ひなまつり”からはじまり“クリスマス会”まで、年に数回のイベントがあります。絵本の読み聞かせや、エレクトーン演奏等でお手伝いをしています。



小児フロアでのクリスマスイベント

バザー

毎年秋には病院のスタッフや患者さんのご協力もいただき、バザーを開催しています。日頃のボランティア活動を終えてから皆で集まり、手作り品の制作もしました。年々工夫を凝らし、いろいろなものを販売しています。



バザーの準備をしています

コンサートの支援

高知医療センターでは年に数回、コンサートが行われます。昨年の出演は尺八とギターのアンサンブル、管楽団のフルオーケストラ、音楽療法のグループなど、プロもしくはセミプロの皆さん。全てボランティアでの出演です。聴きたくてもご自分で入院室から出られないという患者さんがいれば、ハーモニーこうちのスタッフがお部屋から会場までお連れし援助しています。

とくにクリスマスコンサートは、ハーモニーこうちが主催します。自宅でクリスマスを迎えられない患者

さんたちに、気分を味わっていただくことクリスマスに合わせた内容で12月の中旬に開催しています。この行事は、医療センターの前身、県立中央病院時代から毎年開催していて、医療センターでも引き続き行なっています。



くろしおホールでのクリスマスイベント

図書助成もいただきました

図書ボランティアの一環として、昨年は伊藤忠記念財団“子どもの本100冊助成”に応募しました。なんと平成19年度対象団体にハーモニーこうちが選定されました。専門家の方により厳選された絵本100冊の寄贈を受け、病院図書室に配置しました。思わぬプレゼントは日常の活動の励みにもなります。



会員の健康管理も重要です

“心身ともに健康な人”であるために、年に1回は健康診断を受けてもらいます。また、インフルエンザなど活動中にかかってしまったりはたいへん。患者さんにもご迷惑をかけてしまいます。流行前に予防接種も受けてもらうようにしています。

ハーモニーこうちへの登録方法

「誰かのお役に立ちたい」という気持ちをもった心身ともに健康な方であれば誰でも参加できます。活動開始はトレーニングの受講とボランティア保険への加入が条件です。まずは、高知医療センターまごころ窓口、ボランティア事務局までご一報ください。

まごころ窓口 電話：088(837)6777

トレーニングの内容

- ・高知医療センターについてのレクチャー
- ・車椅子介助トレーニング
- ・視覚障害者介助トレーニング

ボランティア表彰

活動時間の累積が一定時間を越えたボランティアさんには、病院側から感謝の気持ちとして、表彰させていただくことにしています。



昨年度の表彰式の様子



「病院ボランティアってなんだろう？」
開院を遡る半年前に、そんな呼びかけが私たちのもとに聞こえてきました。

「高知医療センターは病院ボランティアを受け入れ、職員と同じように扱う。無酬で自主的に活動をしてもらう。活動をとおり、職員と同じように裏方も見てもらう。そして、より患者さんに近い立場で患者さん中心の病院づくりのための提言もする」。これがボランティアの募集に際して病院から示された基本的な役割でした。これに賛同し、「心身ともに不安をかかえている患者さんのお役に立ちたい、そして、少しでも新しい病院のお役

に立ちたい」と集まったのが、私たちハーモニーこうちのメンバーです。

院内で恒常的に活動するボランティアの実人数は、月平均で概ね 30 名～ 40 名程度。昨年秋から隣接する高知女子大の社会福祉学部の学生さんたちがサークルをつくり、加わってくれました。

ボランティアの中心は主婦や元看護師さんなどですが、年代を越えたメンバー同士のふれあいの場ともなりつつあります。緑のエプロンをつけて、院内のあちらこちらで患者さんやご家族の支援活動をしています。

高知医療センター病院ボランティア
ハーモニーこうち代表 山田 長生

ドナルド・マクドナルド・ハウス こうち

18 歳未満の患者さんとご家族のための宿泊施設

～ こちらもボランティアで運営されています ～

高知医療センターに隣接して建っているのが、ドナルド・マクドナルド・ハウスこうち（愛称：こうちハウス）です。お子さんが病気になったとき、家族は子どもに最善の治療を受けさせたいと思うでしょう。その病院が家から離れた病院であれば、家族の精神的そして経済的負担は大きくなります。病院のソファで寝たり、食事も簡単なお弁当で済ませたり、自宅に残してきた兄弟のことを心配したり、お母さんは自分自身の時間もなく、子どもの看病に専念しようとしてします。このような状況のご家族をサポートするために建てられたのが「ドナルド・マク

ドナルド・ハウス」です。（ドナルド・マクドナルド・ハウスは現在 30 ヶ国 274 ヶ所ありますが、日本には 5 ヶ所しかない貴重な施設です。）

お使いいただけるのは、18 歳未満の患者さんとそのご家族。**高知医療センター以外の医療機関での治療の際にも使っていただけます。**

このこうちハウスを支えているのもボランティアです。こちらではハウスキーピングや宿泊手続きなどの活動をボランティア活動として受け入れていきます。

ハウス利用者の負担費用（料金）は、1 人 1 泊 1,000 円とリネン代 210 円。

患者さんは無料となっています。こちらの施設の利用も是非ご検討ください。

施設利用、ドナルド・マクドナルド・ハウスこうちでのボランティア登録
に関してのお問い合わせ先

※こちらはハーモニーこうちとは別のボランティア団体です

ドナルド・マクドナルド・ハウス こうち
〒781-0111 高知市池 953-10
E-Mail : dmh_kochi@yahoo.co.jp HP :
<http://www.dmhcj.or.jp>



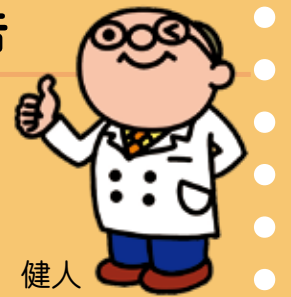
第11回：医療センター職員による学会出張報告

高知医療センターの医師はいろいろな学会に参加していません。そのなかから、学会レポートをご紹介します。

第13回日本集団災害医学会総会

平成20年2月10～11日
in 茨城県つくば市

救命救急科 黒住 健人



平成20年2月10～11日、茨城県つくば市において第13回日本集団災害医学会総会が開催されました。まず、目を引いたのが会場前に設置された二張りのテントで、これらはフランス軍が使用しているバイオテロに対応するためのものでした。



(写真上：テント、写真下：テント内)

内容は大きく四つの要素に分けることができるでしょうか。災害時に派遣させる医療チーム (DMAT) の運用に関する事、地域の災害医療に対する取り組み、国内外の災害報告、そして世界難民支援です。参加者は医師、看護師のみならず、自治体関係者、消防、民間団体、マスコミと多岐にわたっていました。

Japan DMAT (Disaster Medical Assistance Team) は、阪神淡路大震災の教訓により厚労省の主導のもと、現在全国に297病院・423チーム (隊員は2,000名以上) あるとのことでした。基幹災害拠点病院を中心に126病院では複数のチームを保有しているとのこと、当院においても現在2チーム保有しております。今も1,000チーム (200病院×5チーム) を目標にJATEC・JPTEC受講修了者を中心に研修会が行われています。一つの病院からいつでも派遣可能になるためには3～5チームを持つ必要があると考えているようでした。国内の災害において48時間の超急性期のみに対応を目標としており、慢性期へも対応できる日赤医療チームとは多少趣が異なります。

傷病者30人以上で消防本部からの要請があった場合がDMAT派遣基準になっている地域が多いようで、全国規模での活動のみでは機動力が劣り横の連携も不十分なため、現在各地域でのDMATの共同活動についての検討が行われており、四

国でもこの3月には第二回目の大規模訓練が行われます。そういったレベル (県単位以上) になれば訓練においても自衛隊も積極的に参加するとのことでした。災害時には救急車で個別搬送は行わず、域内搬送に救急車を利用し基幹災害拠点病院に重傷患者を集めてヘリを含めた航空機を用いての広域搬送を考えるとのことでした。中規模災害の場合には、トリアージ区分緑の患者に対してさらにsortが必要であるとのことでした。また実際の中越沖地震の報告では、時々刻々と変化する記録を書き留めるにはやはり紙ベースで行う方が良いとのことホワイトボードでは不都合とのことでした。さらに意外なことにDMATが被災地内へ持ち込んだ車を実際に使用したのは約半分だったようで、逆に被災地内ではあまり車は必要ないかもしれないということが示唆されました。

さて、地域によっては保健所や自治体が積極的に災害訓練を企画しているところもあるようで、地域の特性からか佐賀県においては地域防災計画に竜巻注意報が含まれたとのことでした。また何度も噴火が繰り返され全島避難にまで陥った三宅島では、島民のストレスに関する研究が詳細に行われており約30%の島民が不眠を訴えているとのことでした。高知県からは、先日の胴体着陸を受け医療業務課からの空港緊急計画の変更について報告されました。飛行機事故についてはまだまだ検討の余地があり、具体的に機内に何を持って入るのか、傷病者を先に搬出するのか、健康な人を先に誘導するのか等の議論がありました。関西空港からは、乱気流事故は航空機事故との認識が不足しているとの報告もありました。岐阜県では通常医療に災害医療情報システムを使用しており、名古屋の祭りでも同様のシステムの使用が報告されました。自衛隊からはデジタルペンを用いたトリアージタグの記入などITを駆使した情報管理が報告されました。

救助を行う消防の観点に立つと、医療従事者は患者にばかり目が行き自分の身の安全確保が不十分とのことでした。昨今の銃乱射事件等においてはドクターカーの出動基準を満たすようですが、安全に関する情報収集が不十分だったと指摘されております。また被災者のみならず救助に派遣される側のPTSDも問題となっており、特に子供が関係する事例ではその発生が多いとのことでした。

海外派遣における救助・支援の活動においては特にlogisticの存在が重要で、JICAの医療チームでは通常派遣の21名中7名がlogistic (3名が医療関係、4名がその他) であり、要するにいずれにも属さない仕事はどんどんlogisticが片付けていくことが大事とのことでした。最後にマスコミからの意見として、各種の災害訓練は情報公開しマスコミに対する対応も検討しておいた方が良いとの指摘もありました。

当院も基幹災害拠点病院と位置づけられており、この学会に参加することで多くの情報を得ることができました。当院での災害物品で不足しているものや、今後の課題なども明らかになり非常に有意義なものであったと思います。来年以降も継続して災害関係者の参加が必要であると強く感じた次第です。



1. 打診

胸郭内部の構造をイメージしながら進めていきます。打診には直接打診法（指または手を直接からだに打ち当てる方法）、間接打診法（利き手の中指で一方の中指を叩く方法）、叩打法（手を握って叩く方法）の3種類があります。

呼吸器系の打診には、主に間接打診法が用いられます（図1）。また、打診は胸壁から5cm以内の深さと、直径2～3cmの病変を見分けることができるといわれています。



図1：間接打診法

利き手と反対側の中指第1関節（被打診指）を胸壁に強く密着させ、利き手中指（打診指）を鉤状に曲げ、スナップをきかせて垂直に軽く叩きます。

2. 打診で得られる所見

打診音の変化で境界や動き異常を知ることができます。

- ① 胸郭内の異常
- ② 肺、心臓、肝臓との境界
- ③ 横隔膜の高さと可動域の測定

種類	部位	特徴
清音（共鳴音）	肺	「ボン ボン ボン」
過共鳴音（共鳴亢進音）	深呼吸時の肺	「ポーン ポーン」
絶対的濁音	大腿部	「ピン ピン ピン」
比較的濁音	心臓部	—
鼓音	トラウベ三角 腹部	

図2：打診音の種類

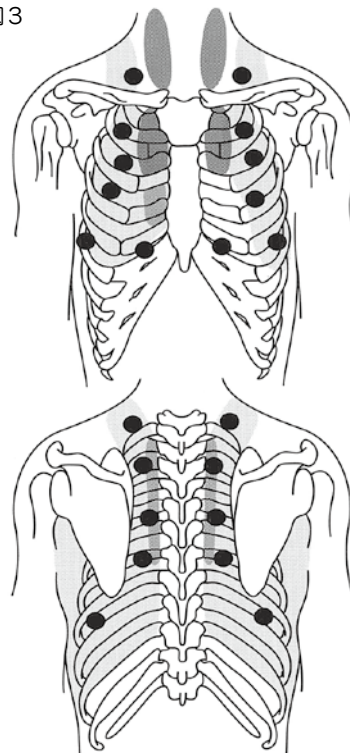
清音：正常肺で聴こえます（澄んだ音）。

濁音：含気量が低下または消失している場合に聴こえ、無気肺、胸水、胸膜炎、心嚢液貯留などが考えられます。

鼓音：含気が多い場所（胃など）で聴かれる。空洞、嚢胞、気胸、肺気腫などが考えられます。

3. 胸部打診の順序

図3



呼吸器&循環器ケア Vol.7 No.2 P76 日総研より抜粋

- ① 左右差に注意しながら、右肺尖 → 左肺尖 → 左上肺野 → 右上肺野 → 右中肺野 → 心臓部 → 左下肺野 → 右下肺野の順に前胸部、背部を診ていきます。（図3）
※基本は左右の側胸部も行います。
※右肺尖は左手の親指を被打診指にします。（図4）
- ② ほぼ聴診と同じ部位を打診します。
- ③ 肋骨の上を叩くと音が変わるため、できるだけ肋間を打診します。（図5）
- ④ 背部は肩甲骨の上をさけて肺野を打診します。



図4



図5

全9回にわたってご紹介いたしました「看護局だよりフィジカルアセスメント」は今回で終了となります。

高知医療センター イベント情報

日	曜	3月
1	土	栄養士会植物油講習会 講演内容:「植物油の基礎知識」、「最近のビタミン学の進歩」、「新しい油脂栄養論」 場所:高知医療センター2階 くろしおホール 時間:13:00～17:00 主催:(社)高知県栄養士会、(社)日本栄養士会、(社)日本植物油協会
8	日	第2回高知医療センター ICLS コース (※今回の応募は締め切りました。) 場所:高知医療センター2階 会議室やなせすぎ他 時間:8:30～18:00 受講費:5,000円 お問い合わせ:高知医療センター 救命救急センター看護師 野村めぐみ
11	火	第6回高知医療センター外科グループ手術症例検討会 場所:高知医療センター2階 くろしおホール 時間:19:00～ お問い合わせ:高知医療センター 消化器外科 谷木利勝
15	土	第4回地域がん診療連携拠点病院公開講座 講演内容:「胃の腫瘍性病変と内視鏡治療について」、「腎臓、膀胱、前立腺のがんについて」、「最近の肺がんの診断・治療について」(入場無料:定員約100名) 場所:安芸市 安芸商工会館2階大ホール 時間:14:00～16:30 お問い合わせ:高知医療センター事務局業務推進課 電話:088(837)6760
15	土	第1回日本褥瘡学会 高知県在宅褥瘡医療セミナー 講演内容:「在宅で必要な褥瘡の評価と局所治療のガイドライン」、「褥瘡ケアの基本～在宅でのケアを考えよう～」 場所:高知医療センター2階 くろしおホール 時間:14:00～17:00(開場13:30) 主催:日本褥瘡学会 在宅褥瘡ネットワーク委員会 申込締切:3月7日(金) お問い合わせ:科研製薬(株)高知営業所 電話:088(826)0800
19	水	高知医療センター院内CPC(第3水曜日) 内容:「救急外来で死亡が確認された救急搬送例」 場所:高知医療センター2階 くろしおホール 時間:18:00(予定)～ お問い合わせ:高知医療センター 総合診療科・循環器科 山本克人
21	金	第7回糖尿病療養指導研修会 場所:高知医療センター2階 くろしおホール 時間:17:45～21:00 対象:糖尿病療養指導士、糖尿病の療養指導に興味をお持ちの医療関連職者 参加費:1,000円 お問い合わせ:高知医療センター 栄養局 渡辺慶子
23	日	ボランティア研修会(公開講演会)・ボランティア総会 内容:「これからのボランティアのあり方を病院職員とともに考える」 講師:日本病院ボランティア協会 副理事長 倉橋広子(阪大病院ボランティア) 場所:高知医療センター 2階 くろしおホール 時間:11:00～12:30(公開講座) 参加費:無料 お問い合わせ:高知医療センター まごころ窓口 電話:088(837)6777
24	月	第28回高知医療センター救命救急センター救急症例検討会 場所:高知医療センター2階 くろしおホール 時間:17:30～ お問い合わせ:高知医療センター 救命救急センター
26	水	循環器病センター循環器疾患講義 内容:「心不全の管理について」 場所:高知医療センター2階 くろしおホール 時間:18:00～19:00 お問い合わせ:高知医療センター 循環器科 田口英詞
27	木	糖尿病患者会「高知かなえの会」3月例会 場所:高知医療センターI階 研修室 時間:17:30～18:30 お問い合わせ:高知医療センター 代謝・内分泌科 深田順一

※時間等、変更になる場合もございます。

編集後記

いつも高知医療センターからの転院にご協力いただきましてありがとうございます。
地域の皆さまには「にじ」の編集を兼ねながら病院訪問をさせていただき、大分顔の見える医療連携が行えるようになってきたのではないかと考えています。私は、地域医療連携室に配属されて2年間、転院調整とベッドコントロールの業務を行ってまいりましたが、この3月で退職することになりました。いろいろご指導いただきありがとうございました。高知県は療養病床再編成で3,700床が再編の対象となっているなど、高齢患者さんの受け皿が整備されなければ地域医療連携は今よりも困難をきたすのではないかと考えられます。医療現場の視点から、高齢者の受け皿体制への取組みを話し合っていく時期が来ているような気がします。皆さまのご活躍を陰ながら応援いたしております。
(看護部長 大沢たか子)



広報誌「にじ」に関するご要望・ご意見等をお寄せください。renkei@khsc.or.jp
 Kochi Health Sciences Center Home Page :http://www.khsc.or.jp/